

2各教科における授業改善プラン

(1)国語科

国語科の重点

・「書く」「話す・聞く」の指導内容を低・中・高学年ごとに明確にし、表現しようとする意欲を高めていく。特に低・中学年において、漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表などにより基本的な国語の力を定着させる。

・暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感するとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	(成果)大きさや長さなどの観点を意識した文や、いつどこなどを入れた文が書ける。 (課題)助詞を、文の中で正しく使う。大事なことをおとさず聞く。	・基礎基本の確実な定着 ・漢字、その他の言語事項の定着 ・話す、聞く力の育成	・視写や短文、日記などを書かせる中で繰り返し文の指導をし、定着を図る。 ・音読カードで毎日音読練習をさせ、文にふれるようにして、内容の定着を図る。 ・スピーチを継続して行い、指導をして
2年	(成果)全体としては区平均と同程度であり、話す・聞く能力のみ上回っている。 (課題)書く能力が目標値、区平均を下回っている。	・順序を考えて書く力の育成。 ・目的に応じて文章を考える力の育成。 ・正しく文章を書く言語力の育成。	・順序を表す言葉の具体例や使用例を示し、適宜指導する。 ・作文や絵日記など文を書く機会を増やし、順序を意識して書かせる指導を行う。 ・ノート指導を丁寧に行い、漢字や言葉を正しく使えるよう指導する。
3年	(成果)区の平均を上回る →読む、言語についての知識・理解・技能 (課題)区平均を下回る →書く	・書く能力、表現力の育成。 ・話す、聞く能力の育成。	・作文など、文を書く機会を増やし、自分の感じたことを表現できるようにしていく。 ・読書の機会を確保し、文に触れる機会を増やす。 ・朝や帰りの会のスピーチなどを通して、話す、聞く時間を充実させる。
4年	(成果)全体に区平均をやや上回る。 (課題)話す聞く・読むについての知識・理解・技能	・漢字の書き、その他の言語事項の定着、充実。 ・読む力の育成	・漢字テストを繰り返し行って、定着を図る。 ・辞書の活用、読書の推進を行い、基礎言語の定着を図る。
5年	(成果)全体に区平均をやや上回る。 (課題)話す聞く・読むについての知識・理解・技能	・話す、聞く能力の育成 ・読む力の育成	・朝のスピーチや授業でのグループ活動など、話す、聞く時間を充実させる。 ・辞書の活用、読書の推進を行い、基礎言語の定着と内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。
6年	・区平均を下回る↓ 課題(言語についての知識・理解・技能、読む能力)	・言語事項の充実 ・読む能力の育成	・「漢字」は定期的にミニテストを行い、確実な習得を目指す。 ・「言葉」について言葉の構成や変化などに興味をもたせ、わからない言葉は、意味調べをするなど、使える言葉の数を増やしていく。 ・普段からすすんで本を読ませ、内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。

2各教科における授業改善プラン

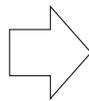
(2)社会科

社会科の重点

社会的な思考力を育成するために、資料の中から問題解決に必要な内容を見つけ、読み取る力をつける。レポートにおいて、視点を明確にして、事象の差異点や共通点を捉えて記録、報告ができるようにする。

- ・地域の様子と自分の生活を関連づけ、親しみをもって課題追究型の学習を身に付けさせる。
- ・日本の産業と自分の生活とのつながりに気付かせ、人々の努力や工夫について考えさせる。
- ・中学進学時に必要な基礎・基本を全員に定着させる。

現状分析(成果と課題)	
分析内容	
1年	
2年	
3年	・学習内容を実生活と結び付けて考える力が十分とは言えない。
4年	・調べたことや考えたことを表現することに課題がある。 ・社会的事象を単発でとらえることはできるが、様々な関連性についての考察に課題がある。
5年	・資料活用、資料を読み取る力が十分とは言えない。
6年	・区平均を下回る↓ 課題(社会的事象についての知識・理解)



授業改善プラン	
指導上の課題	改善案
・土地の高低や使われ方など、社会で学ぶことと実生活を結びつけて考えることが課題である。 ・問題解決的な学習の定着	・自分たちが住んでいる身近な地域の特色や土地利用の様子などを調査、観察して絵地図にまとめることを通して、地域の様子は地形条件や社会条件の影響をうけて、場所によって違いがあることに気づかせる。 ・問題解決的な学習を繰り返す。
・地図や各種の具体的な資料を効果的な活用 ・社会的事象の特色や相互の関連について考察	・地図の読み方、グラフの見方等、資料を読み取るための方法を教える時間を確保する。まとめたことを表現させ、友達と共有できる工夫をする。 ・相違点や共通点を比較し社会的事象の特色をとらえたり、相互の直接的、間接的な関連を考えたりする 活動を取り入れる。
資料を選ぶ明確な視点を育成し、問題解決のための効果的な資料活用の力を養う必要がある。	・資料を読み取る機会を増す。また、資料から読み取れることを考える活動を増やし、グループで意見交換する機会を一層持たせる。 ・ICTを導入し、表やグラフなどの資料の読み取りや活用を中心とした授業を定期的に設ける
社会の変容や特色をとらえるために比較という方法があることを理解し、日本の発展の過程、国際化の進展について理解するとともに、現代社会の特色に気づき、その知識を身に付けていく。	変容をとらえるために、複数の資料を提示し、意見を出し合わせる。そこからその特色や事実に気付かせ、知識・理解を習得させていく。

2 各教科における授業改善プラン

(3)算数科

算数科の重点

・基礎、基本の徹底を図り、学年ごとの内容を確実に身に付けさせる。基礎的事項の確実な定着は今後とも指導の充実を図ることが必要であると考えられる。
算数的活動の改善・充実を図ることを通して、子どもたちが「数学的な考え方」を身に付けられる授業を実現させることが必要である。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	(成果)基本的な数の概念や構成が理解できるようになった。 (課題)たし算、ひき算の確実な定着。	・6年間の基本となる小学校スタート段階の基礎的事項の確実な習得。 ・思考力、表現力の育成。	・具体物の操作で繰り返し学習させ、計算カードやドリルの学習で計算力の定着を図る。 ・ノート指導において、図や言葉でにかき表し、伝え合うことで思考力や表現力を高める。 ・「ぐんぐんタイム」で補習する。
2年	(成果)数学的な考え方以外は区の平均を上回る。 (課題)数学的な考えが下回る。特に、時計の読み方、たし算、ひき算、長さが下回っている。	・基礎的事項の確実な習得(繰り上がり繰り下がり、時計、長さ)。 ・個に応じた支援。 ・思考力の育成。	・プリント、計算カードを利用した反復練習を継続して行う。 ・ノート指導において、考え方を表現する方法を指導する。また、伝え合う活動を取り入れることで思考力や表現力を高める。 ・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。
3年	(成果)区平均を上回る↑ (課題)関心・意欲・態度の上回り率が低い。	・基礎基本の確実な定着 ・個に応じた指導の充実 ・思考力の育成。	・基礎的な問題をドリル等を通して確実に習得する時間を設ける。 ・個別に対応。 ・ベーシックドリルの活用。 ・考え方を表現する方法を指導。
4年	・区平均を下回る↓ (成果)たし算・ひき算については区平均を上回っている。 (課題)特に数学的な考え方について大きく下回っている。	・基礎基本の確実な定着 ・個に応じた指導の充実 ・思考力の育成	・基礎基本の課題を継続的に行い、計算力をはじめとする基礎学力を確実に身に付けさせる。 ・色々なパターンの文章問題に取り組みせ、考える力を高めていく。 ・ベーシックドリルの活用。
5年	・区平均を下回る↓ (成果)関心・意欲・態度については区平均を上回る。 (課題)考え方・技能・知識理解については区平均を下回る。	・基礎基本の確実な定着 ・個に応じた指導の充実 ・思考力の育成	・ベーシックドリル等で、これまでの学習の基礎的な内容を復習する時間を設け、定着していない児童を中心に個別指導を行う。 ・色々なパターンの文章問題に多く取り組みせ、考える力を高めていく。 ・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。
6年	・区平均を大きく下回る↓ (課題)関心・意欲・態度、数学的な考え方、技能、知識・理解すべてにおいて区平均を大きく下回っている。	・6年間のまとめとしての学習内容の定着。 ・中学校に繋がる思考力の育成。	・これまでの学習内容を振り返る時間を設ける。定着していない児童には「ぐんぐんタイム」で補習を行う。 ・思考力育成の為に、立式の根拠を表現する力を高め、考える力を育てていく。

2 各教科における授業改善プラン

(4)理科

理科の重点

予想、見通しを立てる。実験・観察から次の課題を見つけるなどの学習過程を身に付けさせる。さらにその結果を評価し、まとめて表現する力を育成する。

- ・生き物に親しみをもって接しさせる。
- ・見たり、調べたりする観点を明確にさせ、観察に取り組ませる。
- ・観察や実験を通して、学習内容を理解させる。
- ・学習の流れを定着させ、科学的な思考力を高めさせる。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年			
2年			
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験には、進んで取り組むことができるが、観察の仕方・まとめ方の工夫の関しては、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科学習への興味関心を高める工夫 ・基礎事項の確実な定着 ・問題解決的な学習の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な板書やシートの準備を工夫する。そして、実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想をもって学習し、結論を自分でまとめられるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察記録、実験からの考察に学力差が見られる。 ・実験には意欲的であるが、内容の定着には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科学習への興味関心を高める工夫 ・基礎事項の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりや観察・実験等の体験的な活動を充実し、児童の知的好奇心を高めることで理解を深める。 ・変化とそれに関わる要因を関係づけながら調べることができるよう観察・実験をしながら追求していく活動を取り入れる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に、進んで取り組む児童が多いが、内容の定着には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科学習への興味関心を高める工夫 ・基礎事項の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験時に行う用具の操作を全員ができるように、グループの編成や作業の分担を工夫する。 ・実験内容をまとめる際、ただ板書を丸写しするのではなく、キーワードをもとに自分なりにまとめさせるなど、意欲的に取り組むようにする。 ・予想・計画・実験・まとめの流れを様々な場面において繰り返し、定着を図る。 ・これまでの単元とのかかわりについて考えさせるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・区平均を下回る↓課題(科学的な思考・判断) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の確実な習得 ・実験方法を考えたり実験結果を考察する力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方など、復習に力を入れる。実験結果から分かることを自分の言葉でまとめ、どんなことがいえるか考えられるよう練習する。

2各教科における授業改善プラン

(5)生活科

生活科の重点

- ・体験的な学習を通して、自分と身近な人々、及び地域に目を向けさせ、関心を持たせる。
- ・植物や動物を育てたり、関わったりする経験を通して、自分と自然との関わりに関心を持たせる。
- ・学習して気付いたことをや楽しかったこと等を言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることが出来るようにする。

現状分析(成果と課題)	
分析内容	
1年	(成果)・意欲的に見つけたことや気付いたことを文で書くことができている。 (課題)・一方で文で表現することがうまくできない児童がいる。また、視点を広げた観察の仕方が定着していない児童がいる。
2年	(成果)様々な観点で観察をすることができる児童が増えてきた。また、小グループでの発表や新聞作りも協力して取り組めるようになってきた。 (課題)植物等の観察の際に、文で表現することが難しい児童がいる。気付きや工夫のある活動までは到達している児童は非常に少ない。
3年	
4年	
5年	
6年	



授業改善プラン	
指導上の課題	改善案
・興味、関心を広げて、友達と協力したり、力を合わせてやり遂げたりすることの楽しさや良さを知る。 ・学習したことを表現する、表現方法の充実。 ・さまざまな感覚を使った観察方法と表現方法の習得。	・グループ活動を取り入れるなど、場面に応じた学習形態を工夫し、互いの考えを伝えあう機会を多く設ける。 ・学習カード等を工夫し、掲示したり発表したりすることで意欲を高め、自分の気づきだけでなく、友だちの気付きを共有できるようにする。 ・観察の視点を具体的にあげることで、観察の方法と表現方法の充実を図る。
・様々な感覚を使った観察ができてきているが、細かい部分を観察する視点や表現の仕方が身に付いていない。 ・学習のまとめを新聞にまとめ、発表する活動を取り入れているが、工夫の幅が限られている。	・より出来ている児童を取り上げ、他の児童の意欲につなげる。良い気付きをしている児童の発言を広げて、気付いていないことがあることに目を向けさせる。 ・他の学年の学習のまとめを見せる機会を作ったり、様々な発表方法の紹介をして、まとめの幅を広げさせる。

2各教科における授業改善プラン

(6)音楽科

音楽科の重点

- ・声や音をよく聴く態度を養う。
- ・自然で無理のない発声で歌えるようにする。
- ・器楽楽器の基本的な奏法を身につけさせる。
- ・友だちの声や音に合わせ、ともに音楽をつくりあげる態度を養う。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい・たつ・です」を守らずに発言する児童がいる。 ・元よく歌える。 ・気持ちが高揚すると、歌声から外れた奇声や怒鳴り声を出してしまう児童がみられる。 ・リズムによって手拍子のできない児童もみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・意欲的な態度の維持 ・自然な発声の学習 ・拍感の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く態度を育てるため、良い姿勢や聞く態度の良い児童を取り上げてほめていく。 ・口の開け方や気持ちを込めて歌っている子、良い歌声の子を取り上げて良さを広める。 ・曲に合わせて手拍子を入れたり、打楽器や鍵盤楽器でも曲に合わせて演奏できるように教材を工夫する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をするまでに時間がかかる。 ・話や音、演奏を聴く態度や姿勢がまだ定着していない。 ・全体的に意欲的に取り組んでいるが、気持ちが高揚すると興奮して発言・行動してしまう児童がいる。 ・良い響きに気を付けて歌おうとしている。 ・器楽に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の維持 ・意欲的な態度の維持 ・自然な発声の学習 ・鍵盤楽器の基本奏法の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い姿勢や態度の児童を取り上げてほめていく。 ・「はい・たつ・です」に戻って発言を促す。 ・興奮してしまったときは、落ち着かせるために一度静かにさせる。 ・良い発声や気持ちを込めて歌っている児童を取り上げて良さを広める。高音の出る楽曲を選択し、響きある歌声を目指す。 ・鍵盤楽器は2~4人ずつ演奏して教師が運指を確認しながら指導していく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的だが、話の途中で集中できず私語をしてしまう児童もみられる。 ・発声に気を付けて歌おうとしている。 ・リコーダーに意欲的にとりくんでいるが、運指の難しい児童も見られる。 ・友だちと教えあう姿があまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・自然的な発声練習の学習 ・リコーダーの基本奏法の学習 ・指の独立支援学習 ・グループ学習の経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くときや演奏を聴くときには声かけを行い、意識付けていく。 ・発声練習を取り入れていく。高音の出る楽曲を選択し、響きある歌声を目指す。 ・リコーダーの運指指導を繰り返し行っていく。 ・友だち同士の教え合いやグループ学習を取り入れ、友だちの音と合わせることに慣れさせていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶はしっかり行える。 ・授業には意欲的だが、気持ちが高揚すると悪ふざけをしてしまう児童もみられる。 ・発声練習には真剣に取り組んでおり、響きのある歌声を目指している。 ・リコーダーは、意欲的に取り組んでいる。 ・友達と音を合わせる活動に慣れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・発声練習の継続 ・リコーダー奏法の学習継続 ・グループ学習の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の挨拶をしっかりと行い、気持ちを落ち着かせてから始める。話を聞く姿勢を維持させる。 ・発声練習は継続して行い、より響きのある声を目指して助言していく。 ・興味のもてる楽曲を選択し、リコーダーに慣れ親しめるようにしていく。 ・リコーダー練習や合奏など、グループ学習での友だち同士の学び合いを継続して行っていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には意欲的だが、私語が目立つ。 ・発声練習には真剣に取り組んでおり、響きのある歌声を目指している。 ・合奏には意欲的で、友達と合わせようとしていたり、教えあう姿勢がよくみられるが、調子によって悪ふざけに流れてしまう子も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立 ・児童の自尊的感情の肯定 ・意欲を持たせる教材選択 ・器楽楽器の基本奏法の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の挨拶や話を聞くとき、演奏を聴くとき、など静かにする時間を作るようにする。 ・合唱曲は、響きのある歌声を生かす高音のある楽曲を選択する。 ・興味のもてる合奏曲を選択する。 ・様々な楽器を体験できるような時間を配分する。 ・パート練習やグループ練習を取り入れ、友だち同士の学び合いの場をつくっていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり演奏を聴いたりするときに私語をしたり、音を出してしまう児童がいる。 ・変声期を迎え、歌声に自信のなくなってしまう子もみられる。 ・合奏に意欲的であるが、自信のある楽器ばかりを選択してしまう。 ・仲の良い友達とばかり練習してしまいがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の維持 ・素直に表現活動を行えるような環境づくり ・合奏、楽器経験 ・クラス全体での一体感を味わう経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の挨拶や話を聞くとき、演奏を聴くとき、など静かにする時間を作るようにする。 ・児童の中に入って一緒に歌ったり、演奏する指導を取り入れる。 ・変声期の児童には、個別に指導する。 ・多様な楽器を経験できるようにパート分担には配慮する。 ・合奏でのいろいろな楽器の経験を増やすために、1つの楽曲で2チーム作って活動していく。クラス全体での合奏演奏を取り入れる。

2各教科における授業改善プラン

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

児童の実態に、より合致した教材・題材を設定することを心がける。
 絵画表現に操作や工作的な要素を取り入れることで、表現に対する興味や関心をひきだす。
 また、継続的に意欲を喚起し、表現に発展的な広がりを持たせるために、見本を提示したり様々な技法や材料などを紹介したりすることで、表現方法を児童自ら選択する手がかかりとする。
 鑑賞については、鑑賞カードを活用し、自分や友達の作品のよさを味わう態度を育てる。また、アートカード等を取り入れたり、国内外の美術作品の写真を掲示したりすることで、児童が様々な作品に親しむことができるきっかけとする。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲』はおおむね高い... 『技能』平面的に切ったり貼ったりする技能は定着しているが、立体的な表現の定着は今一歩不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作的な表現では、意欲は高いが十分な技能が伴わない児童もみられる。 全体指導では立体的表現に対する理解を進めるのは不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し指導するとともに、見本を提示したり個別指導を取り入れることで定着をはかる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲・態度』はおおむね高いが、学習規律が一部定着していない。 『技能』一部児童に、丁寧に描写する力や基本的な技法が定着していない様子が目られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律は、わかりやすい言葉などで丁寧に指導していく。 ・工作的な表現では、意欲は高いが十分な技能が伴わない児童もみられる。見本や写真などを掲示したが、まだ不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態により合致した教材・題材を設定するとともに、参考資料などを充実させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲・態度』はおおむね高い。 『技能』基本的な技能はほぼ定着しているが、発展的な表現では、発想が広がらなかったり、仕上がりが丁寧でないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現したいことを、よりよい方法で選択させるための手立てが不十分。また、アイデアスケッチなどを取り入れたが、表現をより深めるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法や材料などを紹介したり、見本を提示する。また、グループ活動を取りいれて、児童同士がお互いに試したり気づいたりできるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲・態度』はおおむね高いが、集中力が継続しない児童も見られる。 『技能』基本的な技能はほぼ定着しているが、発展的な表現では、発想が広がらなかったり、仕上がりが丁寧でないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現したいことを、よりよい方法で選択させるための手立てが不十分。また、アイデアスケッチなどを取り入れたが、表現をより深めるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法や材料などを紹介したり、見本を提示する。また、グループ活動を取りいれて、児童同士がお互いに試したり気づいたりできるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲・態度』はおおむね高いが、集中力が継続しない児童も見られる。 『技能』基本的な技能はほぼ定着しているが、発展的な表現では、発想が広がらなかったり、仕上がりが丁寧ではないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数が限られているため、表現を深める時間が不足している。また、参考作品や発展的な技法などの提示が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの題材を進めるに当たり、どのような流れで仕上げていくのか見通しをもたせる。授業時間の度に、到達すべき目あてや進度を提示し、意識付けをして表現を深める手立てとする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 『関心・意欲』はおおむね高い。一部児童において、時折集中力が欠けてしまう面が見られる。 『技能』基本的な技能はほぼ定着しているが、発展的な表現では、表現力豊かに技能を発揮するところまでには到達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数が限られているため、表現を深める時間が不足している。また、参考作品や発展的な技法などの提示が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの題材を進めるに当たり、どのような流れで仕上げていくのか見通しをもたせる。授業時間の度に、到達すべき目あてや進度を提示し、意識付けをして表現を深める手立てとする。また、卒業学年として、作品をしっかり仕上げて展示することへの意欲づけを常にしていく。

2各教科における授業改善プラン

(8)家庭科

家庭科の重点

- ・家庭生活への関心を高め、日常生活に必要な知識と技能を身に付けさせる。
- ・衣食住などに関する基礎的な知識と技能を身に付け、生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。

- ・家庭生活に関する基礎的理解や基本的な技術の習得を行う。
- ・問題解決的な授業や一人一人が興味関心をもっている学習課題の設定を行う。
- ・家庭生活を振り返り、どのように生活しているかをみつめる時間を取り入れる。
- ・生活に活用できる実践や体験を学習過程に取り入れた授業づくりに取り組む。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年			
2年			
3年			
4年			
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを家庭で実践しようとする児童が多い。 ・調理は、実際の体験も多いが、裁縫はアイロンかけ、針を使うことなどの経験が少ない。一度体験していると、見通しをもった学習につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習活動を取り入れるようにすること。 ・体験的な活動を多く取り入れるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の生活をベースに家庭での調べ学習などを行い、家の人と一緒に関わってもらう機会を増やす。 ・個別指導を重視し、個人を見とり、また、児童同士の教え合い、担任や家庭との協力体制を作る。 ・学習したことを家庭でも実践するように働きかける。 ・体験活動の充実を図る。
6年			

2 各教科における授業改善プラン

(9) 体育科

体育科の重点

- ・豊かなスポーツライフにつながる、バランスのとれた体力の育成を図る。
- ・集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育むとともに、運動やゲームの練習や作戦を考え、その改善の方法などを児童が互いに話し合う言語活動を充実する。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>【男子】 体力のバランスは全国平均よりやや高い。持久力が高く、柔軟性が低い。</p> <p>【女子】 体力のバランスは全国平均よりやや低い。柔軟性、敏捷性が特に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の個人差が大きい。 ・男女ともに柔軟性が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組む。 ・柔軟性を高めるための体づくり運動やストレッチ運動に取り組む。
2年	<p>【男子】 体力のバランスは全国平均より並み。持久力がやや高く、敏捷性や筋力がやや低い。</p> <p>【女子】 体力のバランスは全国平均より全体的に低い。敏捷性が特に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の個人差が大きい。 ・男女ともに敏捷性が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組む。 ・筋力を高めるための体づくり運動や走の運動遊びに取り組む。
3年	<p>【男子】 体力のバランスは全国平均より並み。柔軟性が高く、筋パワーが低い。</p> <p>【女子】 体力のバランスは全国平均より並み。柔軟性が高く、筋パワー・持久力が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の個人差が大きい。 ・男女ともに筋パワーが低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組む。 ・筋力を高めるための力の負荷の大きい運動を取り入れ、敏捷な運動に取り組む。
4年	<p>【男子】 体力のバランスは全国平均よりやや高い。握力・筋力が高く、敏捷性が・持久力が低い。</p> <p>【女子】 体力のバランスは全国平均より低い。敏捷性、持久力が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の個人差が大きい。 ・男女ともに持久力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組む。 ・握力・敏捷性を高めるための体づくり運動やストレッチ運動に取り組む。 ・持久力を高めるために水泳や縄跳び、ランニングなどの運動に取り組む。
5年	<p>【男子】 体力のバランスは全国平均とほぼ同じ。筋力や持久力。柔軟性が他に比べて高い。</p> <p>【女子】 体力のバランスが全国平均より著しく低い。特に、持久力が著しく低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男子に比べ、女子の体力の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいを深めるよう、互いに認め合いながら体力づくりに取り組ませる。 ・持久力を高めるために水泳や縄跳びなどの運動に取り組ませる。 ・個人差に応じた指導を行う。
6年	<p>【男子】 全国平均と比較して優れている。筋力が課題である。</p> <p>【女子】 全国平均と比較してほぼ同じ。敏捷性と筋力、持久力が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女ともに敏捷性と筋力をバランスよく育成する。 ・女子は、持久力を重点的に育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・俊敏性と筋力をつけるために、深くしゃがんだ姿勢からできるだけ高く連続してジャンプする運動や、ケンケン足跳びで20m位をできるだけ速くとぶ運動、相手をおんぶして走る運動など、組み合わせで取り組む。 ・なわとびやサーキットトレーニングなど、できるだけ長い時間運動を続けるように取り組ませる。